

余丁校通信



7月の生活目標

学校の物や自分の物を大切にしよう。

「母の席に座ってください」

副校長 伊東 孝司

先日、開校 125 周年記念集会が行われました。子どもたちは学校に関する歴史を学んだり、クイズを出し合ったり、開校を祝う歌「はじまりの歌」を歌ったりし、とても楽しい時間を過ごしました。その姿から子どもたちが、学校が大好きであることが改めてよく分かりました。そして、私も余丁町小の歴史に関われたことに、大きな喜びを感じました。この気持ちをこれからも大切にしていきたいと思います。

さて、先日、教え子の結婚式に呼ばれました。当時はとてもやんちゃだった子が、立派な幼稚園の先生になっていました。「私も先生みたいな先生になるよ!」と言われたときは、とても嬉しかったです。そして、またあの物語を思い出したのです…。

以前、道徳の本にも載っていた「テディからの3通の手紙」という物語…。ある小学校で、ミセス・トンプソン先生という女性教師が5年生の担任になったとき、クラスによく問題を起こすテディという男子がいました。先生は困っていましたが、ふとある日、過去の記録を見て、母が病気で他界し、父が酒に溺れ、面倒を見てもらえなくなったことを知りました。そして先生は今までの考えを改め、テディの心に優しく寄り添う母親のような教師になりました。テディも次第に心を開き、先生の熱意に応え、一生懸命勉強するようになりました。

6年生では、トンプソン先生は担任ではなくなりましたが、いつも陰から応援し続けました。

やがて、テディは卒業しました。そして、忘れた頃に先生に手紙が届きました。テディが高校卒業時には、なんと「先生のお陰で、医学部に合格できました。」と書いてありました。そして、大学卒業時には「先生のように、優しい医者になります。」と書いてありました。そして数年後に届いた手紙は、結婚式の招待状でした。そこには、こう書いてありました。「母の席に座ってください。」

たった1年間の担任でしたが、先生はテディにとって、母親に代わる存在になったのです。改めて教育の偉大さとその重責を感じます。新宿区教育大綱にも、多様な背景をもつ子どもたちへの「個に応じた指導」の大切さが書かれています。私も生涯を通じ、トンプソン先生のような教師を目指すとともに、今後もそういった後進を育てていく所存です。

研究について

研究担当

3年目となる体育科の研究では、これまでの成果を踏まえつつ、より一層「探究的」「協働的」に学ぶ児童の育成をめざした体育の授業づくりを進めています。今年度は陸上運動を中心に、児童が自ら課題を見付け、能力に応じた活動に挑戦する姿を引き出すことを目標に研究を深めています。

体育科の目標は、心と体を一体として捉え、生涯にわたり心身の健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを創造できる資質・能力を育成することです。得意・不得意が表れやすい教科だからこそ、子どもたちには「どんな運動に挑戦したいか」「どんな自分をめざすか」を考え、自分らしい運動との関わり方を見つけてほしいと願っています。また、友達からヒントを得たり考えを伝え合ったりする中で学びが深まる場面を大切に、友達と共に学び合い考えを磨く子どもの育成をめざします。

私たち教員も、子どもたちが「どう学びたいか」「どんな姿に成長してほしいか」を問い続けながら授業改善に取り組み、より良い授業を創り出せるよう歩み続けます。

給食室から

栄養士

食育の一環として、毎年1年生と2年生に、給食の食材に直接ふれてもらう機会があります。今年は5月に2年生がグリンピースのさやむき体験をしました。先生方から説明を聞いてから、手に取って頑張ってみていました。「10個入っていたよ」「こんな小さいのがあった」など、子どもたちがうれしそうに見せてくれました。床に落とさないように、とても丁寧に扱ってくれていました。

そして、無事終了して、子どもたちから受け取り、給食室でグリンピースごはんを炊きました。やはりフレッシュなものは、実がしっかりして甘くておいしいと思うのですが、正直あまり人気のないメニューです。でも、2年生のみなさんは、よく食べていました。自分で直接食材を手にとると興味をもってもらえるのかなと思いました。

7月には1年生にとうもろこしの皮むきを実施してもらう予定です。楽しい時間になるといいなと思っています。